

子どもの本だな 62

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

ぐりとぐらのおきゃくさま

なかがわりえこ さく
やまわき ゆりこ え (福音館書店)

森で雪合戦をしていた野ねずみのぐりとぐらは、雪の上に大きな足跡を見つけました。跡をつけると、たどりついたのは自分たちの家。中に入ると、見えない大きな長靴があり、壁に真っ赤なオーバーや帽子が掛けてあります。そして部屋の隅には大きな袋がありました。お客さまをさがして部屋を見てまわるうち、突然2匹の鼻が動きだしました。「これは、カステラを焼くにおい！」台所にとんでいくと、白いひげのおじいさんが焼きたてのケーキをもって立っていました。「クリスマスおめでとう」おじいさんは、チョコレートとクリームがどっさりのったケーキを2匹の前に置きました。

サンタクロースに貰った大きなクリスマスケーキを、みんなで食べる様子に大満足です。読んでもらえば3歳くらいから楽しめます。(池之上)

クリスマス物語集

中村 妙子 編訳 (偕成社)

昔、パタラの町に、貧乏な男が住んでいました。男には3人の美しい娘がいましたが、持参金が用意できないので、娘たちは愛し合っている若者と結婚できずにいました。ついに食べ物もなくなり、明日は1番上の娘を奴隷として売らなければならないという晩、窓から金貨の入った袋が投げ込まれたのです。そのお金のおかげで娘は若者と婚約しました。次の晩、2番目の娘のためにも同じように金貨の袋が投げ込まれました。その次の晩、父親が隠れて見張っていると、袋を投げ込もうとしたのは町1番のお金持ち、ニコラスでした。自分の財産を貧しい人々のために使ったニコラスは、多くの人々に敬われ、慕われました。そして、亡くなった後は聖人ニコラスとしてあがめられ、ついには世界中で慕われるサンタクロースになったのです。

(エリナー・ファージョン作「セント・ニコラスの話」)

そのほか、躍動感にあふれ、口ずさみたくなる詩「クリスマスのまへのぼん」や、幼い兄弟のやさしい気持ちが奇跡を起こす「だれが鐘をならしたか」など、クリスマスのお話が14編入った物語集。クリスマス前に1話ずつ読むと楽しいでしょう。10歳くらいから。(池田)

12月	1月	12・1月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
6日	10日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
13日	17日			原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
20日	24日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

<お知らせ>

クリスマス
特別おはなしの時間

一緒におはなしや詩や絵本を楽しみます。

12月15日(土)

- ・小さい人(4才~大人)
11:00~11:30
- ・大きい人(小学3年生~大人)
11:30~12:00

※大人の方も入れます。

『声めぐり』 齋藤 陽道 著

晶文社 283頁 2018年7月刊 1,850円 (請求記号) 740.2

著者は、2歳になるころに耳が聞こえないことがわかり、補聴器をつけ発音訓練に明け暮れる日々を送った。訓練は、自分では理解することができない音声の良し悪しを他人の耳で決定される。そのため、ちゃんと聞き、話さねばと焦り、話の内容は覚えていられない。学校生活では相手の話がわからなくても、その場しのぎの言葉でやり過ごしていた。言葉が伝わらない生活は、孤独で、生きる気力を削ぎ、自死か人を傷つけることを考えるまでになった。中学卒業後、ろう学校で手話と出会ったことで、著者は生きた「声」を手に入れる。一つの言葉の表現も語り手によって手の動きや角度、リズム、タイミン

グ、表情が違い、「声色」がある。幼い頃の写真を見ても、思い出の記憶すらなかった生活がどんどん変わった。いろんな人や自然に包まれ生きていることを素直に受け止めるため、聾する耳をもつ者として生きなおす決意をし、補聴器を20歳でやめた。社会人になり、障害者プロレスに出場した。胸から下が動かせない相手に合わせるため、手足を拘束しての対戦。どう攻めるか迷ううちに頭突きの際となる。痛みを逃げる著者が相手に挑発され、歯ざしりしながら再び対戦するという無言の対戦に、著者はからだを通して伝わる「声」を感じ取る。

ダウン症の少年との抱擁、まなざし、子どもの体から伝わってくる鼓動といった著者が感じ取るさまざまな「声」にまつわるエッセイが収められており、どれも音声の声でなくても分かり合える著者の喜びが芯にあり、心が温かくなる。また、どんな形であれ、生きた言葉が人間にとって大切なものだと強く感じた。

(竹内)

12月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	年末年始のお知らせ 12/29~1/3は休館します。				

1月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

13歳からの読書会

『ドリトル先生航海記』を読んで

2月11日(月・祝)

10:30~12:00

・対象：中学生以上(要申込)

・会場：図書館・読書会室

*カレンダーの×印は休館日

*■は館内整理日
返却のみ受付(10:00~17:00)

*開館時間は10:00~18:00
金曜日は20:00まで開館

地下水

11月7日(水)から9日(金)の3日間、中学2年生5人が、トライやる・ウィークにやってきました。朝の掃除に始まり、書架整理、本の分類・登録・装備、貸出・返却、レファレンス、絵本の読み方の練習など司書の仕事を体験する。

初日の朝礼では、1人ずつ自己紹介をし、2日目を挙げ、3日目は、本の中で行ってみたいところを教えてもらった。最初に職員が話し、次に中学生。好きな本は、『三びきのやぎのらがらどん』『しよぼうじどうしゃじぶた』『エルマーのぼうけん』『オズの魔法使い』『旅猫リポート』。行ってみたいところは、ぐりとぐらのカステラの場面、エルマーのどろぼうつ島、などなど。直前にテーマを与えられ緊張していた彼らだが、言葉をさがしさがし話す表情は、からだの内側にあかりがともったように明るく見えた。恐ろしいトロールをやつつけるがらがらどん、からだは小さくても大活躍するじぶた、おいしいものをみんなで食べるぐりとぐら。絵本や物語の主人公が彼らを励ましていたのか、主人公たちと一緒に体験した喜びが、中学生の言葉から伝わってきた。

今年、休館日の都合で実施期間が短かったので、希望者は10日(土)も参加してもらおうことになった。大きい人のおはなしの時間にラプンツェルを聞いたあと、願い事をして、誕生日のA君がロウソクを消してくれたそう。彼らが将来を考えると、図書館で働いた経験が、ささやかでも役に立つといいなと思った。

(片木)

